

令和 6 年 9 月 11 日現在

機関番号：32508

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01336

研究課題名（和文）中近世ヨーロッパ社会における合意形成の起源と展開 合議制・代議制の理念と現実－

研究課題名（英文）The Origin and Development of Consensus in Medieval and Early Modern Europe

研究代表者

河原 温（Kawahara, Atsushi）

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：70186120

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：本科研は、中近世ヨーロッパ諸国において合議による合意形成がいかになされたかを、中世初期から16世紀までの時代枠のなかで探求することを目的として遂行された。分担研究者13名を4つの班（教会・公会議班、皇帝・教皇班、身分制議会班、都市班）に分けて、それぞれの組織・機関における政治的合意形成のプロセスを分析することを試みた。毎年4回の研究会の開催を通じて、ヨーロッパ各地域における合意形成の事例報告がなされ、権力主体の相違、時代的、地域的差異と共通点について議論を深め、中近世ヨーロッパにおける政治的意志決定をめぐる多様なあり方を確認することができた。海外史料調査もほぼ実現することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究プロジェクトでは、中近世ヨーロッパにおいて「合議による合意形成」がいかになされたかを研究テーマとした。教会・公会議班、国王・皇帝班、身分制議会班、都市班の4つのグループごとに、それぞれフランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ネーデルラント、東欧などの地域の専門研究者13名を中心に合意形成のプロセスをさまざまな角度から検討した。3年間で全12回の研究会の開催を通じて、権力主体の相違、時代的、地域的差異の特異性が明らかにされた。また3年目の2022年度以降は、海外史料調査も実現できた。全体を総括した報告書の作成には至らなかったが、今回の共同研究の成果を今後論集としてまとめる予定である。

研究成果の概要（英文）：This research project was done in order to realize how the political consensus was practiced by the church, the king, the emperor, the representative institution and the urban municipal government. By the research seminars held four times each year the process of the consensus of various areas in medieval and early modern Europe was analyzed, and these case studies showed the multiple differences and some similarities in the process of the consensus. Thanks to the documentary research in foreign archives which became possible in the last year of this project, this research project made us realize the peculiar character of the medieval and early modern European society.

研究分野：ヨーロッパ中世史

キーワード：合意形成 代表制集会 公会議 都市参事会 国王集会 多数決原理

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、中近世ヨーロッパ世界における代表制集会及び合議制の起源とその歴史的展開を地域的差異に注目しながら検討することをめざして立ち上げられた。中近世ヨーロッパにおける代表制集会に対する従来の関心は、近代議会制民主主義の淵源をさかのぼって検討するという身分制議会史研究が中心であった。これに対して本研究プロジェクトは、代表制集会と合議制における合意形成の起源と展開を時代的にも、領域的にもより幅広く取り上げて解明することを目指すものである。これまで研究の中心であった王国や諸侯領の身分制議会とともに、カトリック教会と教皇庁による公会議、都市参事会を研究対象に加え、時代的にはカロリング時代から16世紀までの活動の具体的な状況を明らかにしようという意図を持っている。

本研究課題については、ケベック大学名誉教授ミシェル・エベールの著作 (M. Hebert, *Parlementer. Assemblées représentatives et échange politique en Europe occidentale à la fin du Moyen Age*, Paris 2014) においてヨーロッパの身分制議会と合議制に関する展望がなされている。本著作においては、身分制議会史研究の視野が全ヨーロッパに拡大されるとともに、カロリング時代まで身分制議会の起源がたどられていること、また代表制集会と合議制が、身分制議会にとどまらず、ヨーロッパの様々な社団内で発展していったことが総括されている。

そこでエベールの議論を出発点としつつ、本研究では、ヨーロッパの各地域をカバーする中近世史ヨーロッパ史専攻の13名の研究分担者が共同研究を行うことで、前近代ヨーロッパ社会の政治的合意形成システムの全体的特質を明らかにすることをめざした。参加メンバー構成においては、地域的にイングランド、北欧、東欧の一部(ポーランド、ハンガリー、ロシアなど)の専門研究者を欠いているが、研究協力者および外部からの招請研究者によってカバーすることとした。

2. 研究の目的

本研究は、前近代ヨーロッパ史研究において、重要な課題のひとつである、代表制集会および合議制のシステムが、ヨーロッパ各国においてどのような歴史的過程を通じて形成されてきたかを問うことを目的としている。そのためにヨーロッパ各国における合議制の在り方を一次史料に即して比較検討し、その起源と発展や、各地域、各時代による差異と共通性を抽出することを試みる。具体的には、エベールが主に論じている14~16世紀という時代を中心としつつ、その前後の時期も考慮に入れながら、王国、諸侯領、教会(教皇庁)、都市といった多様な諸団体において、代表制と合議制を通じた合意形成がいかに発展していったかをその理念と具体相において明らかにすることをめざすものである。

3. 研究の方法

本研究は、ヨーロッパの身分制議会、国王選挙制、ローマ・カトリック教会による公会議、および自治都市の参事会などにおける合議制の制度的あり方をそれぞれの地域の歴史的過程に即して比較史的に検討する。13名の分担研究者は、皇帝・国王班、教会・公会議班、身分制議会班、都市班の4つの研究班にわかれ、研究班ごとに個別に研究をすすめて、各年度で4回程度の全体会議・研究会を開催し、相互の研究視角、研究方法、論点の共有と深化を図るよう努めた。

1年目(2020年度)においては、メンバーが、中近世ヨーロッパの合議制システムについて共通理解を得るため、ミシェル・エベール著『民衆の声：中世における代表制集会の歴史』(Michel Hébert, *La voix du peuple: Une histoire des assemblées au Moyen Age*, Paris, 2018)をテキストとしてその内容報告を中心とする研究会を2回開催し、ヨーロッパ各国における代表制の歴史的あり方についての最新の研究状況を把握することに努め、メンバーの個別報告のための準備作業とした。

以下、3年間の研究会における研究分担者の報告テーマである。

第1年目(2020年度)

- 1) M・エベール(2018)著作の紹介と論点開示(堀越、鈴木、加藤、大月、河原)
- 2) 教会・公会議班報告 藤崎衛「公会議主義と地域教会」
- 3) 教会・公会議班報告 甚野尚志「コンスタンツ公会議の研究史 「ハエク・サンクタ」の解釈を中心に」

第2年目(2021年度)

- 1) 皇帝・国王班報告 菊地重仁「カロリング期フランク王国における政治的意思決定:素描」
- 2) 皇帝・国王班報告 三佐川亮宏「叙任権闘争時における国王・諸侯・王国 王国の名誉(König und Reich)を担うのは誰か」
- 3) 身分制議会班報告 薩摩秀登「中世後期及び近世初期モラヴィアの議会 その時代背景と概要」
- 4) 身分制議会班報告 黒田祐我「フロンティアにおける身分制議会 カステリャ王国とアラゴン連合王国の分岐」
- 5) 都市班報告 高田良太「ヴェネツィア海外領土の議会」
- 6) 都市班報告 加藤玄「15世紀前半におけるボルドーの市参事会 Jurade について」

- 7) 教会・公会議班報告 大月康弘「リウトブランド『オットー史』とその周辺」
第3年目(2022年度)
- 1) 教会・公会議班報告 鈴木道也「意見表明と合意形成 コンスタンツ公会議のジャン＝ジェルソン」
 - 2) 身分制議会班報告 堀越宏一「ロレーヌ公領三部会における課税審議」
 - 3) 皇帝・国王班報告 皆川卓「選帝侯は「身分制議会」だったのか 中世後期におけるその性格の変化について - 」
 - 4) 教会・公会議班報告 藤崎衛「枢機卿の助言 中世教皇権のもとにおける意思決定の要素」
 - 5) 教会・公会議班報告 甚野尚志「バーゼル公会議(1431-1449)とは何だったのか」
 - 6) 都市班報告 河原温「15世紀後半ネーデルラントにおける君主と全国集会の合意形成について - 1464年と1473年の全国集会を中心に - 」
- また、外部研究者により、中世北欧の教会の合議制(2020年度)、中世後期の東欧(クロアチア)の貴族の合議制(2021年度)、そして北ネーデルラントの全国集会(2022年度)について、それぞれ個別報告を行っていただき、総合的な討論を行った。

4. 研究成果

以上のような2020年度から2022年度にわたる3年間の研究期間において、毎年4回の全体研究会を開催し、メンバー全員が報告するとともに、各年度に外部から招請した研究者による報告も得て、ヨーロッパの多様な地域の合議制の歴史的展開についての認識を深めることができた。

皇帝・国王班においては、特にフランス王や神聖ローマ皇帝(ドイツ王)・諸侯による代表制集会の在り方について、カロリング期から12世紀までと13世紀以降の歴史的位相の差異を踏まえつつ、それぞれ君主・諸侯による代表制集会への関わり方が検討された。

公会議班においては、教皇庁と高位聖職者および王侯貴族が参与した15世紀の公会議(コンスタンツ公会議やバーゼル公会議等)を中心に教会・公会議における代表制システムの特異性が明らかにされた。

身分制議会班においては、ロレーヌ公領やアラゴン王国、モラヴィア(東欧)の身分制議会、三部会のシステムにおける諸身分(三身分)相互の力関係を中心にその協調的関係と対抗関係の在り方が検討された。

都市班においては、ネーデルラント、南西フランス、イタリア(ヴェネツィア)の諸都市の全国集会や都市参事会における代表制システムの分析が行われ、特に、王権や諸侯との対抗関係を中心に、次第に主要な役割を演じるようになる都市内部の市民勢力の代表制システムへの関わり方が明らかにされた。

その結果、ヨーロッパの王国、諸侯領、都市、教会など多様な諸社団における代表制と合議制による合意形成の発展プロセスの大筋が明らかとなり、同時並行的にヨーロッパ各地で代表制集会による政治決定の方式が具体化されていった過程を比較史的に検討する基礎的知見が得られたと思われる。

今回、そうした個別の研究成果は全体としてひとつの論集にまとめられるには至っていないが、分担研究者により今後随時発表される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 薩摩秀登	4. 巻 554
2. 論文標題 コスマス『ボヘミア人の年代記』第2巻について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学教養論集	6. 最初と最後の頁 185, 209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤崎衛	4. 巻 17
2. 論文標題 教皇庁とモンゴルの接触—十三世紀におけるコミュニケーション手段	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 67, 88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高田良太	4. 巻 78
2. 論文標題 アナスタッスの遺言書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 16, 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木道也	4. 巻 47
2. 論文標題 《翻訳》13世紀に歴史を書くということ—プリマと『王の物語』（4）—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋大学文学部紀要 史学科篇	6. 最初と最後の頁 166, 262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 皆川卓（・踊共二・佐藤公美・猪狩由紀）	4. 巻 172
2. 論文標題 モビリティの歴史学のためにー中・近世ヨーロッパにおける空間・社会移動の歴史研究の理論的前提	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 甲南大学紀要文学編	6. 最初と最後の頁 199, 213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三佐川亮宏	4. 巻 112
2. 論文標題 クレモナのリウトブランド『報復の書』/ヴァイセンブルクのアーダルベルト『レーギノ年代記続編』 人と作品	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 123, 166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原 温	4. 巻 7
2. 論文標題 ヨーロッパ中世都市から現代へ ブルッヘ史を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 70, 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河原 温	4. 巻 38
2. 論文標題 15世紀ブルッヘのエリート市民のアイデンティティ形成とブルゴーニュ公権力	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 放送大学研究年報	6. 最初と最後の頁 117, 125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田良太	4. 巻 49
2. 論文標題 イタリア海外領土史の立場から (西洋史研究会大会共通論題報告コメント)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋史研究 (新輯)	6. 最初と最後の頁 151, 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地重仁	4. 巻 12
2. 論文標題 記録を残し記憶が残るーカロリング期の史料と中世におけるカロリング期にまつわる過去の想起	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 2, 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 皆川卓	4. 巻 81 - 1
2. 論文標題 西暦1500年前後の西南ドイツにおける人文主義者、政治と地域的アイデンティティ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 31, 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地重仁 (Shigeto Kikuchi)	4. 巻 38
2. 論文標題 Some remarks on consensual aspects in the Carolingian monastic communities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山史学	6. 最初と最後の頁 37, 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木道也	4. 巻 46
2. 論文標題 《翻訳》13世紀に歴史を書くということープリマと『王の物語』(3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋大学文学部紀要史学科篇	6. 最初と最後の頁 352, 433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甚野尚志	4. 巻 11
2. 論文標題 歴史家朝河貫一への旅(4) - オットー・ヒンツェとの文通と「封建制の本質と拡大」への批判 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エクブラシス：ヨーロッパ文化研究	6. 最初と最後の頁 1, 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件(うち招待講演 6件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 藤崎衛(Mamoru Fujisaki)
2. 発表標題 Knowledge, Study and Teaching of Foreign Languages in Thirteenth- and Fourteenth-Century Papal Curia
3. 学会等名 Papstzoom (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木道也 (Michiya Suzuki)
2. 発表標題 La lettre d' Hulagu au roi Louis IX, datee de 1262
3. 学会等名 La cartographie a grande echelle en Europe au Moyen Age et a la Renaissance: formes, acteurs, pratiques, Univ. de Paris I(France) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田祐我
2. 発表標題 13世紀に地中海圏における捕囚の実態－捕虜解放に関する奇蹟譚の分析－
3. 学会等名 第25回拡大地中海史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 皆川卓
2. 発表標題 初期近代ヨーロッパの国家間仲裁 多様な『主権』を架橋する法発見の背景について
3. 学会等名 外交史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 皆川卓
2. 発表標題 構造史は分解したのか－Social Mobility と2020年の国制史
3. 学会等名 アルプス史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤崎衛 (Mamoru Fujisaki)
2. 発表標題 The Curia and the Khan: A Franciscan Mission to the Il-khan Abaqa (招待講演)(国際学会) 2021年 2021年1月です。 minar Mittelalterliche Geschichte (Wuppertal)
3. 学会等名 Oberseminar Mittelalterliche Geschichte (Wuppertal) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊地重仁
2. 発表標題 海域世界の中のカロリング帝国
3. 学会等名 第70回西洋史学会大会小シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊池重仁（Shigehito Kikuchi）
2. 発表標題 Vorstellungen der maritimen Welten in den Karolingischen Geschichtsschreibungen
3. 学会等名 Forschungskolloquium zur Geschichte der Spaetantike und des Fruhmittelalters, Freie Universitaet Berlin, Germany（招待講演） （国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 皆川卓
2. 発表標題 アルプス地域の建築職人と17世紀ハプスブルク初期絶対主義－寒村と宮廷から見る『文明化の過程』批判と再定位の試み
3. 学会等名 アルプス史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 皆川卓
2. 発表標題 Zur politischen Kommunikation der Staende in Sudwestdeutschland: Formen und Funktionen der Korrespondenz des schwaebischen Bundeshauptmanns Wilhelm Besserer 1489-1495
3. 学会等名 Oesterreichische Akademie der Wissenschhaften, International Symposium: Die Medialitaet des Briefes; Diplomatische Korrespondenz im Kontext fruhenzeitlicher Breifkultur（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 甚野尚志
2. 発表標題 「紀元千年」と終末意識－「黙示論的終末論 (apocalypticism)はあったのか？
3. 学会等名 早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所例会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計21件

1. 著者名 薩摩秀登	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 127
3. 書名 図説 チェコとスロヴァキアの歴史	

1. 著者名 大月康弘（分担執筆）（馬場哲 編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 726
3. 書名 社会経済史学事典	

1. 著者名 河原温（分担執筆）（近藤成一・杉森哲也 編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 307
3. 書名 歴史のなかの人間	

1. 著者名 甚野尚志、黒田祐我、皆川卓（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 346
3. 書名 疫病・終末・再生—中近世キリスト教世界に学ぶ（甚野尚志編）	

1. 著者名 高田良太（分担執筆）高田京比子他編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 488
3. 書名 中近世ヨーロッパ史のフロンティア	

1. 著者名 加藤玄、菊地重仁、藤崎衛（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 627
3. 書名 中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較（高山博・亀長洋子編）	

1. 著者名 菊地重仁（Shigehito Kikuchi）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Harrassowitz Verlag（Wiesbaden, Germany）	5. 総ページ数 1047
3. 書名 Herrschaft, Delegation und Kommunikation in der Karolingerzeit. Untersuchungen zu den Missi dominici(751-888)	

1. 著者名 加藤玄、菊地重仁（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 フランスの歴史を知るための50章（中野隆生、加藤玄編）	

1. 著者名 大月康弘、菊地重仁（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 239
3. 書名 750年 普遍世界の鼎立（シリーズ《歴史の転換期3》）（三浦徹編）	

1. 著者名 大月康弘（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 356
3. 書名 世界歴史体系 イタリア史1（松本宣郎編）	

1. 著者名 河原温、堀越宏一（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 292
3. 書名 西洋中世史（河原温、堀越宏一編）	

1. 著者名 堀越宏一、黒田祐我（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 404
3. 書名 侠の歴史・西洋編（下）（堀越宏一編）	

1. 著者名 鈴木道也（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 580
3. 書名 歴史的世界へのアプローチ（春田直紀、新井由紀夫他編）	

1. 著者名 堀越宏一（分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 359
3. 書名 東西中世のさまざまな地平：フランスと日本の交差するまなざし（江川温他編）	

1. 著者名 黒田祐我（Yuga Kuroda）、皆川卓（Taku Minagawa）、甚野尚志（Takashi Jinnno）分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 De Gruyter (Oldenbourg)	5. 総ページ数 200
3. 書名 Christianity and Violence in the Middle Ages and Early Modern Period: Perspectives from Europe and Japan	

1. 著者名 黒田祐我（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 321
3. 書名 地中海圏都市の活力と変貌（神崎忠昭、長谷部史彦編）	

1. 著者名 皆川卓（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 730
3. 書名 世界歴史体系 イタリア史2（斎藤寛海編）	

1. 著者名 皆川卓（Taku Minagawa）（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Tab Edizioni（Italy）	5. 総ページ数 200
3. 書名 Guerre di religione e propaganda 1350-1650	

1. 著者名 パトリック・コルベ（堀越宏一編・訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 157
3. 書名 中世ヨーロッパの妃たち	

1. 著者名 加藤玄, 河原温, 藤崎衛, 皆川卓 (分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 321
3. 書名 論点・西洋史学	

1. 著者名 河原温 (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 280
3. 書名 都市から見るヨーロッパ史 (河原温、池上俊一編)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 玄 (Kato Makoto) (00431883)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	
研究分担者	三佐川 亮宏 (Misagawa Akihiro) (20239213)	東海大学・文学部・教授 (32644)	
研究分担者	堀越 宏一 (Horikoshi Koichi) (20255194)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 道也 (Suzuki Michiya) (50292636)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	
研究分担者	藤崎 衛 (Fujisaki Mamoru) (50503869)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	黒田 祐我 (Kuroda Yuga) (50581823)	神奈川大学・外国語学部・教授 (32702)	
研究分担者	薩摩 秀登 (Satsuma Hideto) (70211274)	明治大学・経営学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	大月 康弘 (Otsuki Yasuhiro) (70223873)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	高田 良太 (Takada Ryota) (80632067)	駒澤大学・文学部・准教授 (32617)	
研究分担者	菊地 重仁 (Kikuchi Shigeto) (80712562)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授 (12601)	
研究分担者	甚野 尚志 (Jinno Takashi) (90162825)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	皆川 卓 (Minagawa Taku) (90456492)	山梨大学・大学院総合研究部・教授 (13501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	渡辺 節夫 (Watanabe Setstuo)		青山学院大学名誉教授
研究 協 力 者	北野 かほる (Kitano Kaoru)		駒沢大学名誉教授

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関